アユ全雌魚生産技術実用化研究

広沢 晃・荒木 茂・尾田文治

本研究は,市場価値の高い「子持ちアユ」の生産効率を高めるため,全雌魚(雌単一の稚魚群)の生産技術の実用化を図ることを目的として実施した。

材料と方法

1) 全雌試験魚(H6作出)の成否判定

(判定日 H7.10.24)

平成6年10月に,誘導された偽雄様魚119尾のうち58尾を用いて.全雌試験魚63試験区を作出し、 孵化が確認された16試験区のうち,H7.10の成熟期まで養成し,生残魚があった6試験区の雌雄の判定 を行った。

判定は、全ての個体を開腹し生殖巣を確認した。

なお,全雌試験魚作出に使用した偽雄様魚は,平成5年12月2日~平成6年4月29日にかけて雌性発生二倍体魚に17 -メチルテストステロン(以下MTという。)を経口投与及び浸漬処理の結果得られたものである。

2) ホルモン剤(MT)による性転換試験

(試験期間 H6.12~H7.4)

H6.10 に作出した第二極体放出阻止型雌性発生二倍体魚(以下「GA」)を用いて,偽雄を誘導するための MT 処理条件(MT 処理 H6.12~H7.4)を検討した。

H7 年は、H6 年秋の GA の作出が悪く、多くの試験区を設定できなかったため、H6 年の処理結果から MT による性転換の可能性が高いと推察される雌雄同体魚が出現した処理条件から、MT 濃度を経口で、0.5 μ g/g、浸漬で 0.0001 μ g/m ℓ に限定し、処理開始日を孵化後 35 日、45 日、55 日の組み合わせで 6 試験区を設定して検討した。

また、MT 濃度 $0.5 \mu g/g$ の経口投与では、孵化後 $30 \sim 40$ 日目からの早期処理の場合、H6 年の処理結果では不妊魚の割合 $(81 \sim 97\%)$ が高く、MT の影響が強すぎると推察された。 このため H6 に作出した全雌試験魚を供試魚として、より低濃度の $0.3 \mu g/g$ を追加して、GA と同様の処理条件で 9 試験区を設定して検討した。

MT の経口投与は原則として 5回/日,浸漬処理は 3回/週-90分間止水で行った。

なお,経口投与区では生物^餌料の影響を少なくするため,ワムシの投与は MT 投与開始日までとし,アルテミアの投与は MT 投与開始日から 10 日目までとした。

3) 全雌試験魚の作出

(作出期間 H7.10.18~10.24)

平成7年10月に前述2)で誘導した偽雄様魚36尾のうち33尾を用いて全雌試験魚33区を作出した。 偽雄様魚のうち排精があったのは1尾のみで,あとは全て排精がみられなかった。このため,媒精は 排精のあった1尾を除いて精巣を取り出し,ニジマスの人口精しょう(以下「ASP」)を加えてホモジナ イザーですり潰したのちASPで希釈し、その上澄み液を用いて媒精した。

4) 雌性発生二倍体魚の作出

(作出期間 H7.10.7~10.15)

H7.10 に養成親魚を用いて偽雄の誘導試験に供するため GA を 37 試験区作出した。

精子の遺伝的不活化は、ASP でおよそ 30~50 倍に希釈した精子 5m ℓ をガラスシャーレ(15cm)に広げ、6、000~8、000erg の紫外線を照射(15W の紫外線ランプ 2 本、41~62 秒間)することにより行った。また、染色体の倍数化は高温処理により行い、媒精後(受精水温 14.1~14.8)5 分~5 分 30 秒後に 33 度前後で 5 分~5 分 30 秒間処理した。

結果及び考察

1) 全雌試験魚(H6作出)の成否判定結果

平成7年10月24日に,全雌試験魚を全て開腹して雌雄を判定した結果,6試験区中,2試験区(試験区 H6 -4, -4)においては雌が93~96%(生殖巣未発達7~4%)出現し,全雌魚が確認された。残り4試験 区(試験区 H6 -3, -5)では雄が33~50%の割合で出現した。

全雌魚が確認された 2 試験区の MT 処理条件は試験区 H6 -4 が経口 $0.5 \mu g/g$ -処理開始孵化後 60 日 目 1 -4 が浸漬 1 -6 1 -7 に 1 -8 に 1 -8 に 1 -8 に 1 -8 に 1 -9 に 1 -8 に 1 -9 に 1 -8 に 1 -9 に 1

なお,全雌魚が確認された2試験区については,供試した偽雄様魚はともに精巣と卵巣を持つ雌雄同体魚であった。また,雄が出現した4試験区に供試した偽雄様魚は,全て精巣のみを持つ排精のみられた雄で,過去数年間の試験結果と同様に供試した雄が雌性発生魚由来の性転換雄ではなかったと推察される。(表1,図1)

表 1 H7 全雌試験魚判定結果

			供試	偽雄	兼魚の性	状						(H6.	10.1	7-11.	5)		雌雄	判定報	果	(H	7. 10. 2	24)
試験区	MT処理	誘導率	偽雄	作出	魚体重	雌雄	鳍	精巣重量		排精	卵巣	重量	排卵	生殖	<u>腺</u> 重量	判定数	雌		雄不		_不	明‡_
	(H5. 12~H6. 4)	誘導尾数	番号	番号	(g)		形状	(g)	(%)	有無	(g)	(%)	有無	(g)	(%)	(尾)	(尾)	(%)	(尾)	(%)	(尾)	(%)
H 6 - I - 3	経口 0.1µg/g	5.0 %	4	47	45. 5	雄	8		-	+	0	0	-	-	-	251	105	41.8	113	45. 0	33	13. 1
	(孵化35日後)	5 尾	_	l	<u> </u>			L		<u></u>			ļ	<u> </u>							_	ļ
H 6 - II - 4	軽□ 0.5µg/g	5.3 %	3	31	76. 5	雌雄同体	8	3. 9	5. 1	-	5. 9	7. 71	+	9. 8	12. 81	30	28	93. 3	0	0.0	2	6. 7
	(孵化60日後)	36 尾					l			L				<u>L</u> _							L	
H 6 - III - 4	浸漬 0.0001 μg/ml	3.1 %	1	38	84. 5	雌雄同体	₽ ♂	5. 7	6. 7	-	17	20. 6	+	23	27. 34	135	129	95. 6	0	0.0	6	4.4
-	(孵化23日後)	7尾		_		<u></u>	↓ _		_					L.								L
H 6 - III - 5	浸漬 0.00001μg/ml	2.1 %	2	17	58. 7	雄	8	-	_	+	0	0	-	-	-	14	7	50. 0	7	50. 0	0	0. 0
	(孵化23日後)	7 尾	4	19	100. 6	雄	8	-	-	+	0	0	-	-	-	34	17	50. 0	13	38. 2	4	11.8
			5	59-1	48. 7	雄	07	3. 2	6. 6	+	0	0	_	3. 2	6. 571	58	13	22. 4	19	32. 8	26	44. 8

* 不明=生殖巣が未発達な個体

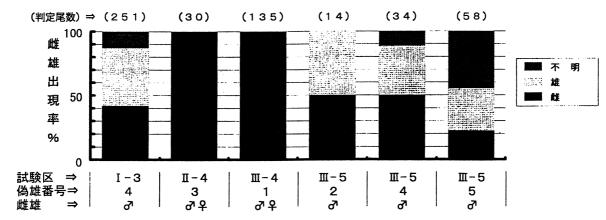


図 1 H7 全雌試験魚判定結果

2) ホルモン剤(MT)による性転換試験結果

H7 年 10 月に MT 処理した試験魚を開腹し、生殖巣を判定した。その結果、GA を用いた試験区では、6 試験区中、1 試験区は供試魚が全滅したためデータが得られなかったが、残り 5 試験区のうち 4 試験区で偽雄様魚が誘導され、判定尾数 468 尾のうち、偽雄様魚が 36 尾(雄 5 尾、雌雄同体魚 31 尾)出現し、誘導率は平均 7.7%(0~26.7%)であった。成熟度指数(精巣分)は試験区の平均で 4.2%(2.4~4.7%)であった。また、誘導された偽雄様魚のうち 86%が雌雄同体魚であり、その成熟度指数(精巣分)は平均4.1%(0.8~8.2%)で、精巣の色は乳白色で通常雄の精巣と変わりはなかった。

試験区毎の偽雄様魚の出現率-出現尾数は,試験区 H7 -1(経口 $0.5 \mu g/g$ -処理開始孵化後 35 日目)0%-0 尾,同 -2(同-同 45 日目)4.4%-6 尾(雄 2,雌雄同体 4),同 -1(浸漬 $0.0001 \mu g/m\ell$ -同 35 日目)26.7%-4 尾(雌雄同体 4),同 -2(同-同 45 日目)13.8%-21 尾(雄 3,雌雄同体 18),同 -3.(同-同 55日目)3.8%-5 尾(雌雄同体 5)であった。

一方,全雌試験魚を用いた9試験区では,供試魚として全雌13-4を用いた5試験区(試験区H7 -3, -1~3)では,前述の全雌試験魚の判定結果より供試魚が.全雌魚(雌単一魚群)ではなかったことが判明し,結果的に通常2倍体魚にMT処理を行ったことになった。その結果,判定尾数1,228尾の

雌雄の出現率・尾数は,5 試験区平均で雄 40.6%-498 尾,雌 36.5%-448 尾,雌雄同体魚 0.1%-1 尾,不妊魚 (生殖巣がほとんど確認できない個体)22.9%-281 尾であった。雌雄の出現割合の差が MT によるものかどうかは不明であるが,不妊魚の出現率は通常魚に比べて高いと考えられ,MT の影響を受けたものと推察される。

また,全雌 3-1を供試魚として用いた残り4試験区(H7 -1~2, 1~2)では供試魚が全滅したため, データは得られなかった。(表 2~3, 図 2~3)

表 2 H7 ホルモン試験結果(偽雄の誘導方法及び結果)

						偽雄様魚								t	雌		雌雄	不好	揺魚		
	試			MT濃度		投与期間	判定	*1	#	**雌女	推同体	ž	t	成熟度					同体		
	駁区		供試魚			(孵化後経過日数)	尾数	誘導	誘導	誘導	誘導	誘導	誘導	指数	出現	出現	出現	出現	出現	出現	出現
				経口	浸漬	(H6. 12~H7. 4)		尾数	率	尾数	率	尾数	率	(精巣)	数	率	数	率	数	数	率
				(µg/g)	(μg/ml)	(尾		(尾)	(%)	(尾)	(%)	(尾)	(%)	(%)	(尾)	(%)	(尾)	(%)	(尾)	(尾)	
\neg		1	GA 4			35~155(120日間)	34	0	0.0	0	0. 0	0	0. 0	_	_	_	20	58. 8	_	14	
Н7	1	2	GA 4	0. 5	-	45~155(110日間)	137	2	1. 5	4	2. 9	6	4. 4	4. 1	_	_	86	62. 8	_	50	36. 5
		3	GA 3			55~155(100日間)	-	-	_	_	_	_	-	_	_	-		_		لا	
	\neg	1	GA17			35~155(120日間)	15	0	0. 0	.4	26. 7	4	26. 7	4. 7	_	_	12	80.0	_	2	
H7	11	2	GA17	-	0. 0001	45~155(110日間)	152	3	2. 0	18	11.8	21		4. 6	_	-	98	64. 5		45	
		3	‡GA			55~155(100日間)	130	0	0. 0	5	3. 8		3. 8	2. 4	_	_	105	80.8	_	19	
	計(1+11)				468	5	1.1	31	6. 6	36	7. 7	4. 2	_	_	321	68. 6	_	130	
C	ONT		GA17	-	-	_	3	-	_	-	-	_	_		0	0. 0		100	0	0	
			‡GA	1	-	-	19	-	_	-	_	_	_		0	0.0	18	94. 7	0	1	5. 3
\neg	П	1	全雌川3-1			35~155(120日間)	_	-	_	_	_	_	_	_		_			_	_	
H7	m [2	全雌 3 - 1	0. 5	-	55~155(100日間)		_		_	_	_		-	_	_	_	_	_	_	
		3	全雌 3-4			55~155(100日間)	296	_	_	_	_		_	_	145	49. 0	86	29. 1	0	65	
		1	全雌川3-1			35~155(120日間)		_	_	_			_	_		_			_		
H7	١٧	2	全雌川3-1	0.3	- 1	55~155(100日間)	-	-	_	_	_		_		-	_		_	_	لـــــا	
		3	全戦 3-4			55~155(100日間)	148	-	_	-	-	_	_	_	50	33. 8		35. 8	1	44	
		1	全雌 3-4			35~155(120日間)	276	_		-			_		94	34. 1	. 121	43. 8	0	61	22. 1
Н7	٧	2	全雌 3-4	-	0. 0001	45~155(110日間)	176 332	_	_	_			-		61	34. 7	74	42. 0	0	41	23. 3
	3 全難 13-4			55~155(100日間)		_		_			_		148	44. 6		34. 3	0	70			
	H	(111	+ IV + V)				1, 228	-	-	-	_	-	-	_	498	40. 6	448	36. 5	1	281	22. 9

- * 経口=5回/日. 浸渍=週3回90分止水
- * GA=第二極体放出阻止型雌性発生二倍体魚
- * +GA=GA1+GA2+GA5+GA8+GA9+GA11+GA12+GA16+GA24 混合
- * ‡雄=精巣のみを持つ個体
- * ##雌雄同体=精巣と卵巣を持つ個体
- * 試験区III, IV, Vの供試魚(全雌 I 3 4)は判定結果より全雌魚(雌)ではなく,通常二倍体魚と考えられる。

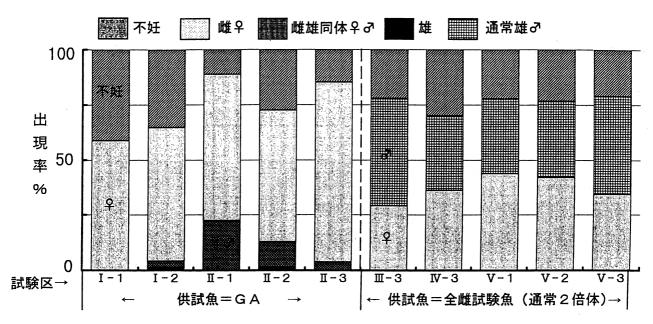
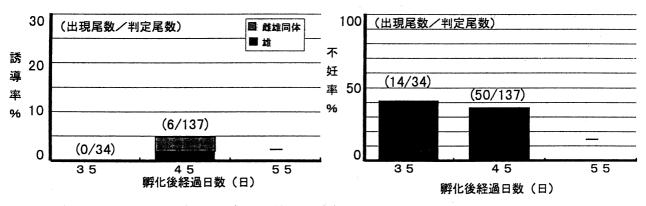
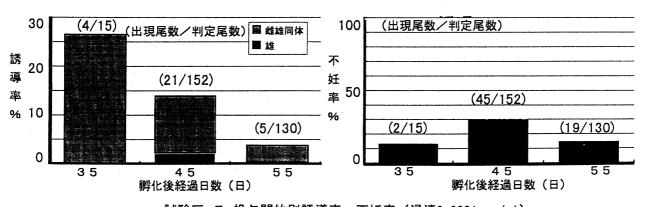


図2 H7 ホルモン試験結果(偽雄誘導結果)



試験区 I 投与開始別誘導率・不妊率 (経口0.5 μ g/g)



試験区 Ⅱ 投与開始別誘導率・不妊率 (浸漬0.0001 μg/ml)

図3 試験区別偽雄様魚誘導率及び不妊魚出現率

3) 全雌試験魚の作出結果

(作出期間 H7.10.18~10.24)

作出した33試験区の全雌試験魚のうち,発生,孵化が確認できたのは僅かに4試験区のみであった。 一方,通常雄2~3尾の精子を使った2Nコントロール区においても,発生率が20%以下の試験区が約半分の16区みられたことから,供試卵の卵質にも問題があったと推察される。しかしながら,偽雄様魚の精子の活力が確認されたのはわずかに6区であったことから,偽雄様魚の養成(成熟)方法及び精子の活性化手法により大きな問題があったと思われる。(表3,図4)

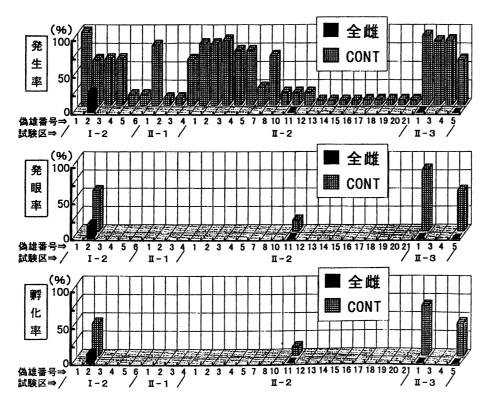


図 4 H7 全雌試験魚作出結果(発生率,発眼率,孵化率)

表 3 H7 偽雄様魚及び全雌試験魚作出結果

					偽故	様魚の	D性状												りの多			
試験区	MT処理	偽雄	全雌作	体重	雌雄	鰭形状		精巣		排精		卵		生殖			発生					
		番号	出番号	(g)	7		(g)	(%)		有無	活力	(g)	(%)	(g)			全雌		全雌	CONT	全雌	CONT
1-2	0.5 µg/g	1	5	111.	9 雌雄同体	P	2. 5	2. 2	未発達	_	-	5. 1	4. 6	7. 6	6.8	ミンス	0	99	-	-	-	_
	(H45-155)	2	14	67.	9 雄	· **	6.0	8.8		+	+	-	-	6. 0	8.8	ASP	28	62	20. 0	56	14. 0	45
		3	15	98.	8 雌雄同体	₽ ♂	4. 5	4.6	l	l –	-	12.4	12.6	16.9	17.1	ミンス	0		_	-	-	-
		4	16	161.	6 雌雄同体	₽ 8*	4. 5	2.8		l –	-	17.4	10.8	21.9	13.6	ミンス	0	63	-	-		-
		5	17	98.	6 雌雄同体	₽ ♂	3.8		l	-	-	0. 2	0. 2	4.0	4.1	ミンス	. 0	14	-	-	-	_
		6	18			· 80	4. 9			l –	-	_		4. 9	4.9	ミンス	0	14	_			
11-1	0.0001 µg/ml	1	4		0 雌雄同体	우	3. 0	2.8		_	-	8. 7	8. 1	11.7			0	81	-	-	-	_
	(H35-155)	2	19	109.	5 雌雄同体	₽ ₽	3.8	3. 5		-	- 1	18.8	17. 2	22. 6	20. 6		0	10	-	-	- 1	_
		3	20	100.	3 雌雄同体	· 68	8.2	8. 2		_	+	0.4	0.4	8.6			0	10	-	-	-	_
		4	21	34. (6 雌雄同体	₽₽	1.7	4. 9			+	0. 3	0.9	2.0			0	62	_	_	_	
11-2	0.0001 µg/ml	1	6	103.	2 雌雄同体	P	1.3	1.3		_	+	18. 5	17. 9	19.8		ミンス	0			-	-	
	(H45-155)	2	7	38.	3 雌雄同体	₽♂	1.7	4. 4		-	-	4. 1	10.7	5. 8		ミンス	0	83	-	_	-	-
		3	8	19.1	3 雄	8	1.1	5. 6		l –	-	-	-	1.1	5.6	ミンス	0	88	-	-	-	-
		4	9	70. (6 雌雄同体	₽	3.0	4. 2		-		7.4	10. 5	10.4		ミンス	0	74	-	-	-	_
		5	10	70.	雌雄同体	₽	2.1	3. 0		-	-	8. 5	12. 1	10.6	15.1	ミンス	0	74	-	-	-	_
		6	-	105.	2 雌雄同体	우	4.3	4. 1	未発達	-	-	0.8	0.8	5. 1	4.8		-	-	-	-	-	-
	İ	7	11	129.	雌雄同体	₽	4. 2	3. 3		-	-	18.5	14. 3	22.7			0	24	-	- 1	-	_
		8	12		2 雌雄同体	우	1.2	1.8		-	-	12. 5	19. 2	13.7		ミンス	0	67	-	-	-	-
		9	-	28. 4	4 雄	8	1.3		未発達	-	-	-	-	1. 3		-	-	-	-	-	-	_
		10	23	89. (6 雌雄同体	₽♂	5.8	6. 5		-	-	2.8	3. 1	8. 6			0	17	-	-	_	
		11	24		7 雌雄同体	₽♂	6.4	5. 3		-	-	23. 1	19. 1	29. 5		ミンス	1	17	0.8	15	0. 5	12
		12	25		雌雄同体	우	3. 3	3. 7		–	-	13. 2	14.8	16. 5			0	17	-	-	-	-
		13	26		7 雌雄同体	₽₽	4. 5	8. 2		-	-	2.0		6. 5			0	6	_	-	-	_
		14	27		5 雌雄同体	₽₽	4.6			-	-	1. 2	1.6	5. 8				6	_	-	_	_
		15	28		2 雌雄同体	₽♂	5. 1	3. 6		-	+	25. 0		30. 1			0	6	-	-	-	_
		16	29		雌雄同体	₽♂	4. 0	6. 0		-	-	1.5	2. 3	5. 5		ミンス	Ŏ	6	-	-	-	_
		17	30		5 雌雄同体	8	5. 1	6. 9		-	-	0. 1	0. 1	5. 2		ミンス	0	7	-	-	-	-
		18	31		3 雌雄同体	₽0"	4. 3	4. 6		-	- 1	7.4	7. 8	11.7		ミンス	0	7	-	-	-	_
		19	32		2 雌雄同体	₽♂	4. 5	7. 5		-	-	0. 2	0. 3	4. 7			0	7	_	-	-	_
		20	33		5 雌雄同体	₽♂	3. 3			-	-	12. 5	16. 1		20. 4		0	7	-	-	-	_
		21	34	. 68. 9		8	5. 1	7.4						5. 1	7.4	ミンス	0			-		
11-3	0.0001 µg/ml	1	1	110. 2	2 雌雄同体	우	3. 7	3. 4		-	-	0. 5	0. 5	4. 2	3. 8	ミンス	1	94	0. 7	85	0. 3	68
	(H55-155)	2	-	_	雌雄同体	우	0.3	-		-	-	20. 1	-	20. 4	_	-			-	-	_	-
		3	2		雌雄同体	우	0. 9	1.0		-	-	16. 7	17.8			ミンス	0	87	-	-	-	-
		4	3		雌雄同体	우	0.8	0.8		-	-	23. 2			23. 0		0	88				_
		5	22		雌雄同体	₽₽	4.9	4. 2		_	+	10.8				ミンス	0. 2	62	0.1	56	0.1	45_
	偽雄様魚	36	_		3 雄5,雌雄		3. 6	4. 2	3	1	6	9. 5	9. 9	11.8							-	
(平均)	全雌試験魚	33	33	88. (6 雄4.雌雄	同体29	3. 8	4. 2	1	1	6	8. 9	9. 3	<u> 13. 2</u>	13.6		0. 92	43	0. 7		0. 5	

4) 雌性発生二倍体魚の作出結果

(作出期間 H7.10.7~10.15)

作出した 37 試験区のうち 36 区で発生が確認され,平均発生率は 25.1%(2N コントロール 72.9%)であった。また,孵化が確認されたのは 23 区で,平均孵化率は 4.9%(同 53.9%)であった。(表 4)

表 4 H7 雌性発生二倍体魚作出結果

		UV処理		倍数化処理	-					UV処理	A	6数化処理		·		Γ
試験	X	0122	処理方法	処理時間	受精水温	杂牛虫	発眼率	異化率	試験区	0122	処理方法	処理時間	受精水温	発生率	発眼率	孵化率
	,	(erg)	(°C)	(分)	(℃)	(%)	(%)	(%)		(erg)	(°C)	(/))	(℃)	(%)	(%)	(%)
GA1	GA	6, 000		5 00" -5 00"	14. 2	60.7	57. 9	27.1	GA20 GA	8, 000	HT 32.4-32.45		14. 5	13. 9	9. 8	0.0
	UV	"			"	54.7	54.7	0.0	UN	"		-	"	31.5	28. 8	1.8
	2N				"	96.1	96.1	86.5	2N				"	83. 9	83. 9	6. 1
GA2	GA	6, 000	HT 33.0-30.0	5 00" -5 00"	14.4	19.1	16.8	0.6	GA21 GA	8,000	HT 32.6-32.55	00" -5 30"	14. 4	15.8	13. 2	0.0
	UV	"	-	-	"	50.6	49.4	0.0	UV	"		-	"	63.0	60.2	
	2N				"	77.5	68. 9	62.0	2N				"	91.9	91.9	
GA3	GA	6, 000	HT 32.8-32.8	5 00" -5 00"	14. 3	47. 5	38.0	8.3	GA22 GA	6,000	HT 32.4-32.45	100" —5 100°	14. 6	15.5	9. 5	1
1	UV	"		-	"	55. 2	44. 2	0.0	UV	"		-	"	24.3	23. 5	I
	2N				"	100.0	94. 9	90.2	2N	<u> </u>			"	68. 1	68. 1	65.6
GA4	GA	7. 000	HT 33. 0-33. 1	5 00" -5 00"	14.3	27. 2	21.0	5. 0	GA23 GA	6, 000	HT 32.6-32.65	100" -5 100°	14. 8	19.8	15.1	1
	UV	"		-	"	68. 9	62.0	0.0	UV	"		-	"	42.0	39. 2	1
	2N			- -	"	94.7	85.2	83. 2	2N	-		- CON F CON	14.0	86.6	86.6	
GA5	GA	6, 000	HT 32.9-32.9	5 00" -5 00"	14.4	40.3	35. 2	3.0	GA24 GA	6,000	HT 33. 0-33. 1 5	100" —5 130°	14.2	40.0	38.0	
	UV	"		_	"	77.8	70.0 91.9	0.0	UV 2N	"		_	",	63. 6 59. 5	54. 3 57. 1	0. 0 46. 6
GAE	2N GA	7 000	HT 22 0-22 0	E 100" — E 100"		96.7		32.6	GA25 GA	6, 000	HT 33.9-33.05		14. 2	23.0	23. 0	1
GA6	GA UV	7, 000	3Z. 3~3Z. 9	5 00" -5 00"	14.3	28. 5 46. 9	25. 3 45. 8	0.3	UV	0,000	_ 33. 3-33. 0 3	uuu 30	14.2	66.5	62.5	1
	2N			_	",	97.0	97.0	96.0	2N	"_	_		"	61.1	61.1	1
GA7	GA	7, 000	HT 32 9-32 9	5 00" -5 00"	14.3	22.3	20.5	0.6	GA26 GA	6, 000	HT 33. 0-33. 1 5		14. 2	10.0	10.0	
"	UV	1,000		- 55 5 50	//	58.3	52.5	3.1	UV	0,000		-	"	79.5	79.0	l .
	2N	_			"	88. 1	79.3		2N	-			"	47.5	47.5	
GA8	GA	7. 000	HT 33.1-33.0	5 00" -5 00"	14.4	10.5	10.5	0.0	GA27 GA	6, 000	HT 32.5-32.65	30"-5 00"	14.1	14.7	10.5	0. 2
	UV	"		_	"	25. 6	23. 0	-	UV	"		-	"	62.3	60.9	-
	2N	_		_	"	48. 5	46. 2	37.0	2N			_	"	93.5	93.5	84. 2
GA9	GA	7, 000	HT 33.0-33.0	5 00" -5 00"	14.4	1.7	1.7	0.0	GA28 GA	6, 000	HT 33.0-33.15	30" -5 00"	14.1	0.0	-	-
	UV	"		_	"	4. 2	4. 2	-	UV	"		_ '	"	30.1	-	-
	2N				"	74.7	74.7	59.8	2N				"	84.8		<u> </u>
GA10	GA	7, 000	HT 33.4-33.2	5 00" -5 00"	14.7	40.0	22.0	0.6	GA29 GA	6, 000	HT 32.8-32.9 5	30" -5 00°	14	16.0	4.0	0.0
1	UV	"		-	"	50.0	34.1	9.8	UV	"		-	"	42.1	33. 3	
	2N				"	51.6	51.6		2N				"	91.9	91.9	
GA11		7. 000	HT 33. 0-32. 9	5 00" -5 00"	14.8	56.6	48.7	3.9	GA30 GA	6, 500	HT 32.9-32.9 5	00"-5 00°	14. 5	19.5	12.8	ł
	UV	"		-	"	72.4	66.7	5. 7	UV	"		-	"	9.0	4. 5	
0140	2N	-			"	48.3	46.6	30. 2	2N	C 500			14.4	55. 7	51.7	
GA12		7. 000	HI 33. U-32. 9	5 00" -5 00"	14.7	40.0	32.0	1	GA31 GA	6, 500	HT 33.1-33.0 5	00" -5 00	14.4	43.6	42.3	1
	UV	"			"	71.8	68.5	5.6	UV 2N	"	-	_	"	47. 1 44. 3	46. 3 45. 1	40.6
CA12	2N	7 000	UT 22 2 22 2	5 00" - 5 00"	14.0	73.3	73.3	61.9	GA32 GA	6 500	HT 32.5-32.65		14. 5	2. 2	1. 2	
GA13	LIV	7, 000	HI 33. 3-33. Z	5 00" -5 00"	14.8	81.3 84.3	65.1 84.3	16.3 12.6	UV	6, 500		5 00	//	14.4	- 1. 2	
	2N			_	",	85.8	85.8	81.0	2N	<u> </u>		_	"	6.0	5. 4	4. 3
GA14	-	7, 000	HT 32.9-32.8	5 00" -5 00"	14.6	41.8	34. 2	6.3	GA33 GA	6, 500	HT 32.5-32.55		14.4	3. 1	2. 5	
	UV	"		_	"	75.0	70.8	30.1	UV	"		_	"	33. 3	-	-
L	2N				"	85.0	85.0	84.3	2N		<u> </u>	_	"	88. 4	79.6	63.6
GA15	GA	8, 000	HT 32. 3-32. 3	5 00" -5 00"	14.4	7.7	1.9		GA34 GA	6, 500	HT 33.0-32.95	15" -5 100	15.1	37.6	37. 6	1
1	UV	"		_	"	40.7	31.3	20.0	UV	"		-	"	26. 5	23. 8	ł
_	2N				"	79.0	79.0	21.5	2N				"	40.5	40.5	
GA16		8, 000	HT 32.6-32.6	5 30" -5 00"	14.4	14.6	11.0	0.0	GA35 GA	6, 500	HT 32.9-32.9 5	15" -5 00	14.9	0.9	0.0	-
l	UV	"		_	"	63. 8	63. 8		UV	"		-	"	20.2		-
	2N				"	93. 7			2N	-	 		"	45.4	40.9	
GA17			Hr 32. 3-32. 5	5 30" -5 00"	ł	22.0		1 1	1	1	HT 32. 4-32. 4 5	15" 5 00	1	16.0		
	UV	1			"	74.2		1 1	UV	1		_	"	65. 4	ı	
0115	2N				"	75.0			2N				14.0	68.4		
GA18			ні 32.3-32.5	5 00" -5 00"	14.1	12.9	1	1 1	GA37 GA		HP 32. 4-32. 4 5	15 -5 00		32. 9	1	
	ÜV	"		_	"	38.5			UV	1		_	"	53.7		•
0110	2N	0.000		- E 100% E 100%	14.4	75.4	74.6		2N 平均 GA					47.8		
GA19			пі 32.5-32.5	5 00" -5 00"	14.4	30.7	1	1 1				•		25.1		
	UV	"		_	" .	37.8			UV					49.3		
L	2N				"	91.8	91.8	66.9	2N	L	L		<u> </u>	72.9	68.9	53.9

5) ホルモン剤(MT)による性転換試験

(MT 処理期間 H7.12.1~H8.4 予定)

H7年10月に通常二倍体魚から作出したGAから偽雄を誘導するため,MT濃度,投与方法,投与期間別に14試験区を設定して試験期間H7.11~H8.10の予定で誘導試験を実施中である。

MT 処理は浸漬処理では,MT 濃度を過去の結果から有効と考えられる 0.0001 µg/mℓとし,適当な処理

時期を検討するため,処理開始日を孵化後 30 日~55 日目の間で 5 日毎に 6 試験区を設定した。また、過去の試験で設定のなかった $0.0005 \, \mu\, g/m\ell$ の濃度区(処理開始 45 日,55 日)を 2 区設定した。

一方,経口投与では,MT 濃度 $0.5 \mu g/g$ の処理で H6 年,H7 年いずれの年も雌雄同体魚が出現したことからその近辺での有効濃度を検討するため,過去に設定のなかった MT 濃度 $0.4 \mu g/g$ を中心に,処理開始日を孵化後 45 日 ~ 60 日目で 6 試験区を設定した。

なお,浸漬処理では,原則として,3回/週-90分止水,経口投与は5回/日とした。また,経口投与区の生物餌料の投与はその影響を少なくするため,ワムシを MT 投与開始日まで 1~2回/日とし,アルテミアは孵化後2週間後から MT 投与開始後10日目まで1回/日とした。配合餌料の投与は孵化後10日目から開始し,生物餌料投与中は3~4回/日,生物餌料が終了した時点からは5回/日投餌した。(表5)

表 5 H8 ホルモン試験(偽雄誘導試験)

(MT処理期間H7.12~H8.4)

	•		мт	濃度		収容尾数	収容水槽
試	険区	供試魚	経口	浸漬	(孵 化後経過日数)		の容量
			(µg/g)	(µg/ml)	(日)	(尾)	(L)
	1	GA37		·	30~150(120日間)	1, 000	500
	2	GA24			35~150(115日間)	260	500
ı	3	GA31	_	0. 0001	40~150(110日間)	1, 040	500
	4	GA11			45~150(105日間)	370	500
	5	GA14			50~150(100日間)	700	500
	6	GA 1			55~150 (95日間)	430	500
II	1	GA34	-	0. 0005	45~150(105日間)	380	200
	2	GA 3			55~150(95日間)	380	200
	1	GA13			45~150(105日間)	530	500
III	2	GA13	0. 4	-	50~150(100日間)	530	500
	3	GA13			60~160(90日間)	530	500
	1	GA34	0. 5			450	500
IV	2	GA34	0. 4	_	55~150(95日間)	450	500
	3	GA34	0. 3			450	500
計	14		_	-	-	7, 500	-

- * 経口=5回/日, 浸渍=週3回90分間止水
- * GA=第二極体放出阻止型雌性発生二倍体魚

6) 雌雄同体魚からみた MT 処理条件について

H6年秋に出現した雌雄同体魚を用いて作出した8試験区27区の全雌試験魚のうち,最終的に2試験区しか残らなかったが,その2試験区では全雌魚が確認されたこと,出現した雌雄同体魚はその外観(尾鰭,体表等)に個体差がみられ,非常に雄に近い形態を示す個体から逆に雌に近いもの,あるいはその中間的形態を示すものが認められたこと,及び他県においてもMT処理により出現した雌雄同体魚を用いて全雌魚を作出した事例があることなどから,当試験で出現した雌雄同体魚はMT処理により雌性発生二倍体魚が性転換した可能性が強いと推察される。このため,雌雄同体魚=性転換雄であると仮定して,過去の試験結果から雌雄同体魚が出現したときのMT処理条件について整理してみた。

経口処理では,S61~H7の間にMT濃度400~0.01 μg/g(14濃度),処理開始日-孵化後20~120日目(10期日)の組み合わせで35ケース実施した結果,H6-4,H7-1,計5ケースで雌雄同体魚の出現がみられた。

そのときの MT 処理は,MT 濃度 0.1 及び $0.5\,\mu\,g/g$,処理開始日-孵化後 35,45,50,60 日目であった。出現率は $1.0\sim22.2\%$ で,特に, $0.5\,\mu\,g/g$ での出現頻度が高かった。また, $0.5\,\mu\,g/g$ では孵化後 $50\sim60$ 日目から処理をした場合が $35\sim45$ 日目から早期処理をした場合に較べ出現率が高い傾向が伺えた。このことから,これまで検討してきた処理ケースの中では,ほとんどが数パーセント以下の低い出現率に留まっているものの,経口投与における 1 つの処理方法として、「MT 濃度 $0.5\,\mu\,g/g$ +処理開始日-孵化後 50 日 ~60 日」が考えられる。

なお,過去に実施した経口と浸漬の併用処理区 7 ケースでは雌雄同体魚の出現はみられなかった。 (表 6,図 5)

表 6 雌雄同体魚出現結果一覧

(昭和61年~平成7年までの雌雄同体魚出現時におけるMT処理法及び出現率・尾数) MT処理 雌雄同体魚 不奸魚 判定星数 出現率 判定年 処理法 濃度 処理回数 処理期間 出現尾数 出現率 (尾) (孵化後経過日数) (%) (%) (尾) 35~170 (135) 1.6 18.7 123 H6 経口 0. 5 45~155 (110) 2. 9 36.5 137 H7 $(\mu g/g)$ 5回/日 50~155 (120) 22. 2 6 29.6 Н6 27 3. 8 60~170 (110) 26 7. 8 682 H6 0. 1 1.0 35~170 (135) 5. 9 101 Н6 2 23~170 (147) 0.9 4. 0 Н6 224 30~170 (140) 3.8 0.0 53 **H6** 0.0001 3回/週-90 止水 35~155 (120) 26.7 13.3 15 H7 12 40~170 (130) 2. 1 0.0 578 浸漬 45~155 (110) 11.8 18 29.6 152 **H7** $(\mu g/ml)$ <u>55~155 (100)</u> 3.8 5 14.6 130 H7 0.0001 3回/週-60 止水 40~190 (150) 0.3 3 2.6 879 H4 3回/週-90 止水 0.00001 23~170 (147) 0.3 1.5 339 H6 0.00001 3回/週-120 止水 40~153 (113) 11.1 44.4 9 Н3 計 (平均) (6.6) 87 (14.9) 3, 449 14

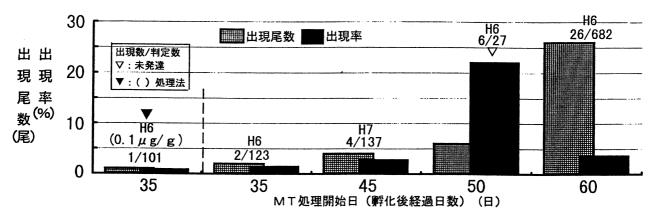


図 5 「浸漬-MT 濃度 0.0001 µ g/g」処理における雌雄同体魚出現率・出現尾数

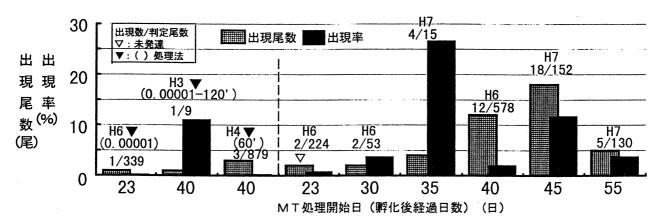
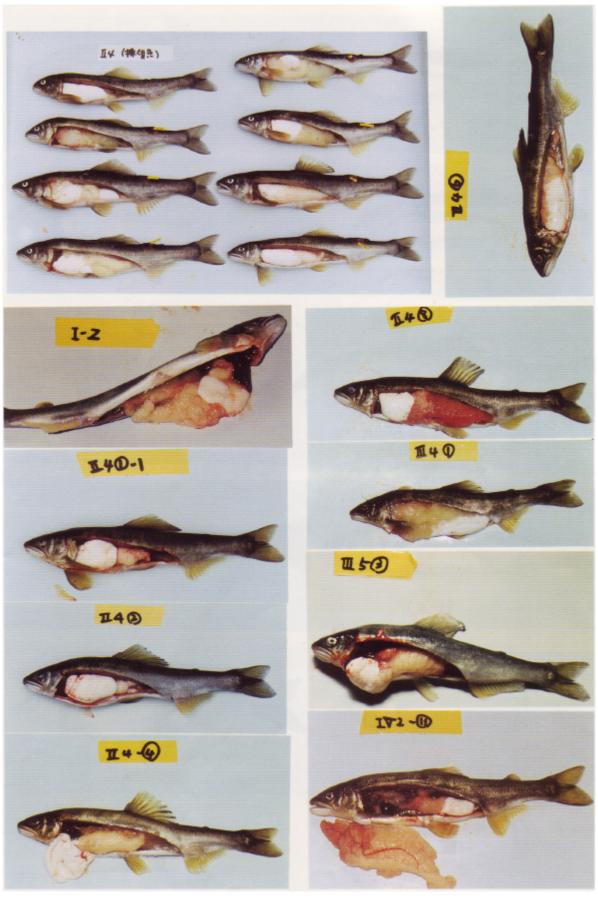


図 5 「浸漬-MT 濃度 0.0001 µ g/mℓ」処理における雌雄同体魚出現率・出現尾数

H6 雌雄同体魚(MT 処理 H5.12~H6.4)



H7 雌雄同体魚(MT 処理 H6.12~H7.4)

